

## 二十歳の誓い

7年前の今日、私は京都市少年合唱団の団員として、このステージに立ちました。約八千人の新成人の方の前で、自分の歌声はこんなにも多くの人に届いているのだといった瞬間が楽しくて仕方がなかったことを今でも鮮明に覚えています。

私が高校生のとき、熊本地震が発生しました。毎日ニュースで被害の様子を見て、この京都から何か少しでも支援できないだろうかと考え、合唱団の仲間とチャリティーコンサートを企画・実行し、「歌うこと」で支援金を集める活動をしました。このことがきっかけで、大学生になってからも、地域貢献活動の一環としてコンサートを開催するなど、

私にとって音楽とは、人と人とのつながりを作り出してくれ、自分自身を表現することができるとても大切なものでした。

しかし、環境は一変しました。コロナウイルスの流行によってです。歌を通して自分を表現することが大好きだった私は、一切の表現の場を無くしてしまっただけです。学生生活をかけて積み上げてきた経験が意味のないものになったといった錯覚に陥りました。誰とも直接会えない、仲間と歌えない、自分の思い描いていた未来が叶わない現状に八方塞がりです、すごく苦しみました。

そんな時、合唱団時代からの友人が、ベートーベン第九の演奏をオーケストラと合唱一緒にリモート演奏している投稿に参加し、その動画が Twitter を通して広まり、メディアで特集されているのを見ました。彼らの「前に進むんだ」といった姿に感動を覚えました。そして、コロナによる新しいリモートという発信の形は、たくさんの人の目に止まる可能性や、より多くの人と繋がることのできる可能性に満ちていることを知り、本当に勇気づけられました。

コロナ期間を通して私たちにはできなくなったことがたくさんあります。しかし、逆にコロナ期間であるからこそ、気付けたこと出来るようにことがあります。どんな時にでも、ただ失望するだけではなく、現状を受け入れて未来へと進んでいける、常に、逆の視点の発想を持った大人になりたい、と考えています。そしてこれまで歌を通して得た経験を生かして、社会や誰かのために良い影響を与えられる大人になりたいです。このことを、私の「二十歳の誓い」とさせていただきます。

令和3年1月11日 新成人代表 堤 香乃